

先進地視察研修会・富山市視察REPORT

2016年度先進地視察研修会は、2月6日～7日の日程で幹事、専門委員及び事務局の8名が富山市を訪問。今回の視察は、人口減少社会の到来が本格化し地方創生が叫ばれるなかで、同市の基本政策である「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」及び「富山駅周辺整備事業」「路面電車南北接続事業」などをテーマに実施した。あいにく雪交じりの天候であったが、北陸新幹線開通後の冬の富山を実体験するとともに、公務ご多忙のなかを森雅志市長と懇談の機会を得るなど大変有意義な視察研修となった。

以下は視察概要及び参加者による視察レポートである。



期日：平成29年2月6日(月)～7日(火)

視察先：富山市

内容：富山市の基本政策である「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」及び「富山駅周辺整備事業」「路面電車南北接続事業」ほか

[1日目] 富山市公共交通まちづくりインフォメーションセンター(受入部署・都市整備部路面電車推進課)を訪問。「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」をテーマに事業説明(高森部長)及び意見交換を行う。その後、富山駅北停留所より富山ライトレールに乗車、「富山ライトレール車両基地」の視察。中心市街地に戻り、富山駅周辺を散策。

[2日目] 同市路面電車推進課の案内により、「富山駅周辺整備事業」及び「路面電車南北接続事業」の現地視察を実施。引き続き、中心市街地を訪れ、再開発ビル「ユウタウン」、全天候型広場「グランドプラザ」、市民自転車共同利用システム「アヴィレ」及び市立図書館が入る隈研吾氏設計の「富山市ガラス美術館」を視察。昼食後には、森雅志富山市長を表敬し貴重な情報交換の機会を得た。終了後、富山駅へ移動、帰路に就いた。

富山市視察で思ったこと

代表幹事 吉岡 慧治

富山駅に到着して、駅構内もだいぶ落ち着いて、馴染んできたように感じた。駅前広場の活用も各公共交通がスムーズに動き、ゆったりした雰囲気が出てきた。大変心地よく感じた。しかしながら、残念なことに、駅広に面したビルに入っていた飲食店が、いつの間にか全国チェーンの店になってしまっている。今までの富山市独特の地元店がなくなって、どこにでもある街になってしまった。旅行者にとって非常に残念である。新幹線の便利さを考えると、滞在してまで楽しめる魅力的な街ではなくなってしまったのがおしいことである。



中心市街地はあくまで人があふれ活気がなくてはいけない。人が集まりやすく、移動しやすく、楽しい所がたくさんあることが条件である。その意味で富山市は確実に整備を進めてきた。しかし、以前の富山市から見れば、人の数が圧倒的に少ない。その理由を推定してみると、平日の昼間は、職業を持つ人はまず出てこられない。昔も変わらなかったかもしれないが、外出できるのは、お年寄り・子育て中の親子・旅行者(観光客)などである。しかも公共交通機関を使って来た人達である。最近では自家用車を使って、郊外の大規模ショッピングセンターで昼食を食べ、夕食の食材を買いに行くのではないだろうか。自家用車で行ければ安全に楽に行ける。この人たちが中心市街地に来なくなってしまっただけでも賑わいは消える。では旅行者(観光客)はどうだろうか。観光客から見ると都市の魅力がないと来てくれない。特にリピータとして来てくれる人が増えないといけない。それには、この都市の魅力を出すことしかない。文化・芸術・食事・娯楽・夜の街などで、魅力を作り出すしかない。今までの商店街の活性化ではもはや都市の賑わいはもどらない。どこの都市にも共通していると思うが、もはや商店街の活性化を図ろうとしても難しい。地方都市の中心部活性化には、都市の魅力とは何なのか、都市の発展はどうなされるのがベストなのか、経済力確保のために必要な方策は何か、など独自の取り組みが必要になっているのではないかと。



今回の富山市視察で、今まで大変うまくいっていた都市であり、他都市の見本のような成功事例都市が、しかも新幹線開業後の今になって、時代の波の洗礼を受けなければならないのかと、大いに考えさせられた視察であった。

アーバンデザイン都市・富山市を訪ねて

専門委員 清水 一也

新幹線が金沢まで延伸となり、北陸が注目されている。旅行客の大半は金沢を目的に直行するが、通過する地域にも魅力的な街が多い。視察で訪れた2月、意外に雪の少ない富山駅から市役所までの町並み、お洒落なラッピングの LRT が街並みに溶け込み、各種誘導サインなど、色彩やデザインが一定のルールで統一されたこの街に魅了された。

先ごろ日本総合研究所から発表された中核市の都市ランキングでは、金沢市に次ぎ第6位となり、特に生活分野、教育分野、仕事分野は1～5位と注目されている。

「都市の美醜は市民の心」とは、ある賢人のコメントだが、旅人が感じるその街の評価は、ビジュアルな街の印象や、そこで触れ合う市民の印象が大きなポイントなのであろう。

良好な都市の景観は、社会的な認識として高まっている。街づくりを進める際にデザインの重要性は不可欠だが、大半は個別の事情と市民の合意形成のはざままで、暗礁に乗り上げてしまうこともある。

ここ富山市は、コンパクトシティ構想を進めている。特にデザインを大切にしたい発想は、市長の提案と全庁をあげて取り組んでいる共通認識で、市民の合意形成のもと着実に都市が蘇っている印象を受けた。再開発事業や地域開発のプロジェクトは、全国に広く呼びかけ、コンペ方式で多くの知恵を生かす手法も実施している。また路面電車を軸にした画期的な取り組みは、主要な路線から離れた地域の住民の理解を得る手法として、郊外地を集団化し(団子)、それぞれを LRT と路線バス(串)で繋ぐ「お団子と串」計画などである。

美しい街づくり「アーバンデザイン」は、都市の環境と都市空間、市街地などを計画設計すること



街並みに溶け込むLRT



全天候型広場「グランプラザ」外観

を意味する都市計画用語だが、都心を構成する建築群などや形態を重視して、都市環境、都市空間を計画し設計することである。出迎えて頂いた市役所の方々から取り組みの説明を伺い、わが街を愛している思いと自信が伝わってきた。

お忙しい時間を割いて面談頂いた森市長は「人・まち・自然が調和する活力都市とやま」を目指し、レジリエントな都市(災害に強く回復力のある都市)を目指しながら、人口減少を念頭に持続可能な街づくりを熱く語った。地方都市の人口は加速度的に減少するとの危機感から、20年、30年先を見据え、将来世代に責任が持てる持続可能な都市経営を目指し、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを政策の基本として、超高齢社会に対応したまちづくりや、子どもたち・子育て世代にとって暮らしやすいまちづくりなど、様々な施策に取り組んでいる話に感銘を受けた。

注目の路面電車南北接続事業は、平成31年度に完成すると、富山駅を挟んで分離されていた公共交通が一つにつながるので、街づくりに大きなインパクトを与える事業であろう。最近3年連続で地価が上昇し、住民転入が続いていることから、これまでの取り組みが実を結び始めているとのことであった。再訪したい街である。

先進地視察研修「富山市視察レポート」

専門委員 中森 隆利

「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を目指す富山市を視察した。新幹線を降りると「ガラスの街とやま」をPRする「フロア・シャンデリア」があり、日本初のLRTにつながるまちなかには富山城址公園や国際会議場、博物館や美術館、そして広場があり、フラワーバンケットには四季折々の花が溢れ、都市の美観を図り、人の集まる持続可能な都市づくりを目指しているのは歴史あるヨーロッパの都市を見るようである。そして、富山も直面する人口の減少、自動車社会、中心市街地問題などに対して公共交通の活性化、その沿線への居住促進、中心市街地の活性化に取り組んでいる方向が良く理解できた。

北陸新幹線の富山駅前には「三面半舞台」で話題になった富山市芸術文化ホール「オーバード・ホール」があり、平成8年に「劇場都市とやま」の拠点として1650～2196席の「あらゆる演出を可能にする舞台」をテーマに完成し、オペラ、ミュージカル、バレエ、オーケストラなどすべてのジャンルが楽しめるホールとなっていて、年間を通して公演数も多いが、今回は時間がなく入場が出来なかったのが残念であった。

まちなかにある全天候型広場「グランドプラザ」は全面ガラス屋根の広場でにぎわい創出の場所だが今回は時期、天候も悪く人もいないため期待していた広場の使い方やイベントの設営、PAなどの音の問題など本来の姿を見ることは出来なかった。



富山市芸術文化ホール



全天候型広場「グランドプラザ」

只、再開発ビル「TOYAMAキラリ」は戦災で残った百貨店の跡地を利用し、図書館と美術館の一体運営をしている画期的な施設だった。平成27年8月に建築家隈研吾氏の設計によるこの施設がオープンしたが、外観だけでなく内部が斬新で見事なデザインとなっていて500万人以上が来場している。

富山と言えば薬で、薬瓶のガラスより発展して30年前から本格的な「ガラスの町」に取り組んだ。ガラス作家を全国より招き、学校や「富山ガラス工房」で活動してもらって芸術育成プログラムも持ち、延べで400人以上の卒業生を出していて、その内の100名以上が富山で活動している。5階、6階にある富山市ガラス美術館は国内外のガラス作家による現代ガラス作品を展示し、コレクション展や特別展示、企画展などを積極的に開催している。6階の「グラス・アート・ガーデン」は撮影も許可され、ここでも閉鎖的になりがちな美術館が参加・解放型の姿勢が出ている。ミュージアムショップやカフェなども充実していて、一息入れるのに適した滞在できる空間となっている。

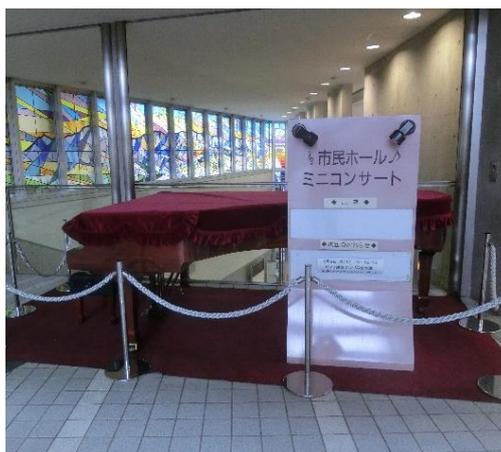
また、3～5階にある富山市立図書館本館は人が集い、学び、憩えるまちなか情報拠点として書棚や読書コーナーなどは当然、2階ロビーにはグランドピアノが有り、30分～1時間のライブラリーコンサート、富山市職員が贈るコンサート(森市長もサクスを演奏したこともある)、トークライブなどが開催されている。音を出さないことを好む図書館のロビーで、しかも吹き抜け構造の美術館につながる場所で、短時間とは言えコンサートが定期的に行われていることには大きな意義を感じた。

最後に森雅志市長を訪問した富山市役所内の2階市民ホールにもグランドピアノが置かれ、昼休みのひと時を一般の音楽愛好家や市民に開放し、気軽に音楽を楽しめる場を提供して「市民ホールミニコンサート」を月2回程度、水曜日の12時10分から開催している。そして、富山駅2階の一角には、待合コーナーにもさりげなく電子ピアノが置かれていて誰でも自由に弾くことができるようになっていた。森市長の話ではまちなかの他にもそのような場所が有るとのことで、誰でも、何時でも参加できる場づくりが進んでいることが知れた。

今回の視察で、コンパクトシティ化や路面電車などの公共交通など着実に実施している事が良く分かったがこの成果が本当に出るのはまちなかに本当の魅力があり、集まる必然性が必要と強く感じた。それには更に芸術や文化や集う楽しみに加え、市外からも人が来る都市型観光が必要で、4月には森市長も再選され、これらを総合的に加えた効率の良い都市が実現して行くことを期待したい。



再開発ビル「TOYAMA キラリ」



コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築

専門委員 松本 基志

「富山市のまちづくりといえばLRT」と言う程、LRTが有名であるが、今回の視察で、改めて富山市のまちづくりについて視察をさせて頂いた。

2月6日、高崎駅に集合し、北陸新幹線で富山駅へ。北陸新幹線開業前は上越新幹線越後湯沢駅で乗り換えて、ほくほく線特急はくたかを利用していたが、北陸新幹線開業で格段にアクセスが良くなったことを再認識した。富山駅到着後、公共交通まちづくりインフォメーションセンターで富山市都市整備部長から「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」について概要を伺い、その後、富山ライトレールに乗車し、車両基地へ。更に、2日間中心市街地を中心に各事業について視察。最後に訪問した富山市役所では、公務がお忙しい中、森雅志富山市長が我々と面談してくださった。当初面談時間30分の予定だったにもかかわらず、1時間以上にわたり富山市のまちづくりについて熱く語ってくださり、内容の濃い有意義な視察の締めくくりとなった。

コンパクトシティ戦略による富山市のまちづくりの概要は、以下の通りである。

富山市では、広く薄く広がった市街地と高い自動車交通への依存により、道路、下水道をはじめとする行政コストが増加すると共に、高齢者などの自動車が使えない住民にとっては暮らしにくい状況が発生。そこで、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に住居、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進している。実現するための3本柱は、①公共交通の活性化、②公共交通沿線地区への居住推進、③中心市街地の活性化である。

具体的には、先ず、公共交通の活性化として、利用者の減少が続いていたJR富山港線を公設民営の考え方を導入し、日本初のLRTに蘇らせた富山ライトレールとして整備。旧JR富山港線に比べて、運行間隔30分～60分を15分(ラッシュ時は10分)に短縮し、駅数を9駅から13駅に増やした。更に、全車両を低床車両にし、電停をバリアフリー化、ICカードの採用やアテンダントの配置など運行サービスの向上を図った。

これらの結果、利用者が平日で約2.1倍、休日で約3.4倍に大幅に拡大した。中心市街地の活性化と都心地区の回遊性の強化を目的に、市内電車を一部延伸する市内電車環状線事業に着手、日本初の上下分離方式の導入や、魅力ある都市景観の構築に向けた道路空間との一体的な整備を進めた。この結果、環状線利用者のうち、中心市街地で2時間以上滞在する人、1日当たり1万円以上の消費をする人の割合が堅調に推移している。買い物を目的とした外出機会が増加



するとともに、ついでに増えた目的として飲食の割合も高くなっている。更に、路面電車南北接続事業として、新幹線高架下(新幹線改札口の前)に路面電車停留所を全国で初めて設置した。この事業により、新幹線・在来線、路線バスやタクシー、自家用車等と路面電車が有機的に接続され、乗り換え利便性が格段に向上するなど、交通結節機能が強化されとともに、富山市北部地域と中心市街地のアクセス強化が図られ、公共交通や中心市街地の活性化に寄与している。次に、中心市街地や公共交通沿線への居住推進をはかるために、良質な住宅の建設事業者や、住宅の建設・購入や賃貸で入居する市民に対して助成を実施。中心市街地活性化のための事業としては、積雪寒冷地の気候にも配慮し、賑わいの核となる全天候型広場「グランドプラザ」を整備、年間91.1%(休日:100%、平日:86%)イベント等で利用されている。交通事業者と連携し、65歳以上の高齢者を対象に市内各地域から中心市街地へ出かける際に公共交通利用料金を1回100円とする割引制度を実施。平成27年度1日平均2,763人が利用するなど、高齢者の外出機会の創出、中心市街地の活性化、交通業者への支援等に寄与している。中心市街地の20か所に設置された専用ステーションから、自由に自転車を借りて任意のステーションに自転車を返却することが出来る新しいコミュニティサイクルシステム、市民自転車共同利用システム「アヴィレ」を導入。実際に現地で自転車を拝見したが、おしゃれで街の景観づくりにも一役買っている。華やかで明るい空間を演出し花で潤うまちを創出するため、指定の花屋さんで花束を購入し、市内電車等に乗車された方々の運賃を無料にする「花 Tram モデル事業」というユニークな事業も展開している。中心市街地に市立図書館・市ガラス美術館が入る再開発ビル「キラリ」を整備。平成27年8月に開館し、平成29年1月には来館者数が100万人を超える。



これらのコンパクトなまちづくり事業を進めた結果、都心地区・公共交通沿線居住推進地区では、転入人口が増加しており、更に中心市街地の小学校児童数も増加。富山市全体では高齢化に伴う自然減により総人口は減少しているが、社会増減では近年転入超過基調となっている。地価も富山県内市町村では、富山市だけが上昇しているなど、効果が表れている。

私は、10年ほど前、富山市で開催された全国都市監査委員会総会で、森雅志富山市長の講演を伺った事があったが、その当時から取り組んでこられた「コンパクトシティ戦略によるまちづくり」が着実に実行され、成果をあげていることを今回の視察で確認することが出来た。森雅志富山市長が強力なリーダーシップのもと、一貫した施策をぶれることなく進めており、対応して下さった職員も、市長のまちづくりに関する考え方を良く理解して、事業の推進に取り組んでいる姿に感銘を受けた。

美しいリーダーシップによる 美しいまちづくりに学ぶ

専門委員 杉原みち子

2月6日高崎発 9:34、富山着 11:28。北陸新幹線の開通はかつての距離感を全く変えてしまった。昨年12月に「初心を大切に精進を重ね、将来世代が夢と希望を持てるよう全身全霊をささげたい」と答弁され、2017年4月16日に4選を果たした森雅志市長(64歳)に面談することができた。



- ・ 1977年司法書士、行政書士事務所開設。
- ・ 1995年富山県議初当選。2002年旧富山市長選挙で当選。2005年、2009年、2013年と再選。
- ・ 富山ライトレール(JRの赤字路線を引き受ける覚悟)とコンパクトシティ事業が評価され2010年国土交通省の交通文化賞受賞。
- ・ 元横浜市長の中田宏によれば森市長は「アイデアに溢れた非常に評価の高い人物」。
- ・ フェルメールの絵画鑑賞を趣味としていて35作品のうち34作品を制覇(私費による海外視察)
- ・ 3年連続で地価が上昇し、転入超過が続いている。
- ・ 「人・まち・自然が調和する活力都市とやま」を目指し、災害に強く回復力のある都市を推進。
- ・ 奥様は2011年にがんで亡くなられた。

(以上ホームページより)

頂いた名刺のサイズは黄金律。TOYAMAのロゴはTOYOTAと同じデザイナーによるもので許可を得ての仕様とのこと。見事な美意識とこだわりが驚いてしまった。

富山市は政活費不正問題で新聞紙上を賑わし、地方議会のあり方を全国的に見直すきっかけとなった。偽造や水増し請求は当たり前の富山市議会に対し、アイデアにあふれ、実行力に富み、勇気と決断力を伴った文化人 森雅志市長とのあまりに大きな乖離が理解できなかった。が、結論はリーダーは世界的視野に立って、未来の子供たちに責任ある行動と勇気ある決断、そして部下からの信頼と尊敬に尽きると気づかせて頂いた。

森雅志市長との懇談は30分の予定が1時間以上におよび、奥深い思考、幅広い関心と創造を超えた行動力、人間力、発する言葉に一瞬にして魅せられてしまった。

- ・ 図書館のコンセプトは「書齋を作らずリビングを作ろう！！」
- ・ ガラス美術館は「透き通る美術館」
- ・ 街づくりのコンセプトは ①楽しいか ②おいしいか ③オシャレか
そして「あわてず・無理するな・のんびり行こう」

- ・歩いて暮らせるまちを実現する。
- ・LRT 導入時1日 4 回も説明した(恩恵に浴さない地区からの批判対応)
- ・3年間で 109 回コンパクトシティについて語った。
- ・「お迎え型病児保育」の実現に厚生省に 2 年半通った。
- ・ヤル気とアイデアの部署に予算をつける(特命チーム)
- ・女性チームはシングルマザーの働きやすい環境づくり。
- ・65 歳以上の働きたい人の働く場づくり。
- ・終戦前夜の空襲により中心部は全焼。先人達はセットバックをして広い道路を将来の為に確保してくれた。その心を生かさなければ申し訳がたたないと静かに語られた。歩行者、自転車、車道の道路整備が進められており、市長の先人への感謝と将来への責任が伝わってきて感動の一瞬だった。

「TOYAMA キラリ」ガラス美術館 + TOYAMA CITY LIBRARY(富山市立図書館本館)

平成 27 年 8 月開館。隈研吾設計。

- ・アルプスをイメージした外観(御影石・ガラス・アルミ)
- ・富山県産材のルーバー(羽板)を活用したぬくもりのある開放型空間
- ・まちなかの賑わい創出のため公共交通網を利用してもらうために駐車場はない。500 日で 100 万人の来場(1日当たり 2000 人)見事に目的を達成する。
- ・7 階～9 階は金融機関が入居しており、財源に対する手腕も森市長ならではと感服。

「ガラス美術館」

開館時間 AM9:30～PM7:00、(金)(土)PM8:00 まで。休館日 第 1、第 3 水曜日、年末年始。

高校生以下、70 歳以上(富山市住民登録)、孫、ひ孫と来館された方は無料

(下線は市長のアイデア)

- ・富山の薬は錠剤→反魂丹→液体の薬→ガラスの瓶とガラス製造の基盤があった。平成 3 年に富山ガラス造形研究所を開校しガラス工芸作家を育成。作家を支援し、産業化をはかり(街中のホテルや公共施設に作品がアーティスティックに飾られている)作家が定住(400 人中 160 人)
- ・中心人物のアーティストは市長自ら私費により世界中のガラス工芸家の中からアメリカ人のデイル・チフリーを選ぶ。その審美眼に敬服するほどすばらしいガラスのインスタレーションが 6 階フロアにパワーをみなぎらせている。

「富山市立図書館本館」TOYAMA CITY LIBRARY

- ・「知を深める図書館」をキーワードに本に親しむ喜びや心の豊かさを育む。
- ・「人が集い、学び、憩えるまちなか情報拠点」
- ・3 階は児童図書フロアになっており、授乳室や幼児用トイレが整備され、隈研吾の人間への愛があふれている設計。

・ 2階で月に2回ロビーコンサートが開催され富山市職員が贈るコンサートもあり、森市長もサックス演奏を披露することも。ちなみに富山駅の中2階に自由に弾けるピアノがあり、驚いたが市長の私物とのこと。まちなか、いたるところにピアノがあり、うらやましい限りであった。

人口421,953人(平成22年)。ノーベル受賞者5名。東証一部上場9社、二部1社。B to Bではないので知名度はないが、かつての薬売りの歴史(日本中の情報をつかんでいた)がいまだに情報の集積として残っていることを物語る数字である。

まちづくりに対して、楽しみながらほとぼしる「地域愛」を抱き、全身全霊で励む美しいリーダーシップ。部下が市長を信頼し、尊敬している、輝く美しい表情。市役所の入り口に部長の顔写真と名前が明記された各人の自覚と責任を促すボードの設置。オシャレなフラワーハンギングバスケット(花かご)と長方形の美しいパナーフラッグ(垂れ幕)、シックで高質なデザインの街並み、高貴でモダン、品格があり重厚なグッドデザイン金賞を受賞した動くアートな車両などなど、見ても歩いても乗っても食べてもオシャレなまちに一目惚れ。6月19日(月)、26人(法人会女性部会)で早速、研修します。

うれしい人と出会う場所・楽しいコトと出会う場所。高崎から2時間弱。絲山秋子氏は森市長と飲み友達とか。オールジャパン、オール地球の時代です。市長をはじめ丁寧な対応を頂いた職員の皆様、事務局の尽力に感謝申し上げます。